

3

地理歴史・世界史研究（学校設定科目）の実践事例

〔ステップ1〕 単元①における 課題と改善策

単元「ヨーロッパ世界の海外進出」（6時間）
自主作成教材を使用

概要

- 単元のまとめにおいて、「北米における植民地争奪戦にイギリスが勝利する理由」という歴史的因果関係を記述させた。
- 記述に苦手意識を持つ生徒が多いことから、資料の読み取り、授業者が解説した後、理由の記述をさせた。

課題

- 記述のねらいを明確にすることが課題となった。
イギリスの軍事上の優位や経済力の優位も説明する必要があり、様々な要因を生徒が理解した上で、記述させる必要があった。授業者が記述させるためのねらいを明確にしておく必要があった。
- 生徒に考えをまとめさせるための具体的な手立てを講じる必要があった。
生徒が何をどのように書けばよいかを明確に示し、考えさせるための具体的な手立てを考えることが必要であった。

改善策

- キーワードを与えて、歴史的事象のプラス面とマイナス面の両面で考えさせることとした。
いきなり書かせるのではなく、キーワードを与えて大まかな内容を考えさせてから、文章を組み立てさせた。キーワードを与えることによって、何を記述すべきか、生徒に明確に示した。
- キーワードを裏付ける具体的な理由を考えさせた。
キーワードを裏付ける具体的な理由となる歴史的事象を考えさせることによって、何をどのように書けばよいか明確になり、記述に取り組みせることができると考えた。

〔ステップ2〕 単元②における 成果と課題及び改善策

単元 「フランス革命とナポレオン」（13時間）
自主作成教材を使用

1 単元指導計画

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	単元で身に付けさせたい力
単元の評価規準	フランス革命以降の国民国家の形成に関する歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。	フランス革命以降の国民国家の形成について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	フランス革命期に作成された文字資料や絵画、写真などの図像資料から有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	フランス革命以降の国民国家の形成を理解し、その知識を身に付けている。	フランス革命を題材にして18世紀後半から19世紀までにおける国民国家の形成を理解する力

※ 表中の「関」＝関心・意欲・態度、「思」＝思考・判断・表現、「技」＝資料活用の技能、「知」＝知識・理解

次	時	評価の観点				評価の方法	主たる活動	指導上の留意点・ポイント
		関	思	技	知			
1	1 2		○	○		記述の確認	○旧制度下の社会状況を考察し、何が社会矛盾となっていたかを理解する。 ○革命に影響を与えた思想や諸外国の動向について考察し、表現する。	・資料集の史料などから革命の思想について調べさせる。
2	3 4 5 6		○	○		記述の確認	○革命の推進力となる社会層について段階的に考察し、有力な政治諸党派の主張や社会的基盤を理解する。 ○革命に対する諸外国の干渉の動きを国際的視点から考察し、表現する。	・資料集の地図や年表から、有力な政治諸党派の主張や社会的基盤の違いや、革命に対する諸外国の干渉の動きについて調べさせる。
3	7 8		○		○	記述の確認	○革命の成果を握ったのは、どのような社会層であったかを理解する。 ○革命におけるナポレオン法典の性格・意義について考察し、表現する。	・革命の成果を握ったのは、どのような社会層であったか、革命におけるナポレオン法典の性格・意義について考えさせる。
4	9 10 11 12 13	○	○			記述の分析	○ナポレオンの大陸制覇により、革命の原則はヨーロッパに広まるが、のち諸民族の反発を招いて滅びたことの意義を考察し、表現する。 ○フランス革命からナポレオン時代にわたる国際戦争の性格を考察し、表現する。	・ナポレオンの大陸制覇の歴史的意義について、多角的に考えさせる。

2 本時の展開（本時は第11時）

【本時の目標】

- ナポレオンによる大陸制覇の歴史的意義について考察し、表現する。

分	学習活動	学習活動における評価規準	評価方法
5分	○本時のねらいを確認する。単元のまとめの記述をすることを理解する。	【思考・判断・表現】 ナポレオンによる大陸制覇の歴史的意義について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	記述の分析
	課題1 ナポレオンによる大陸制覇の歴史的意義を説明せよ。		
10分	○課題1のねらい、何をどのように記述すればよいかを理解する。		
10分	○課題1の結論部分と歴史的事象の概要を記述する。		
10分	○課題1の1回目を記述する。		
5分	○指名された生徒は1回目の記述内容を口頭で発表する。		
5分	○ほかの生徒の発表を聞いて、自分の記述を見直し、2回目を記述する。		

3 言語活動の充実を図る指導の工夫

(1) 考えを持たせ、広げさせる工夫

◎ キーワードを与えて考えさせる

いきなり課題を与えて、書かせようとしても、何をどう書き始めたらよいか分からない生徒が多くいる。そこで、記述に必要なキーワード（「旧制度の（が）打倒」、「革命の理念（が）広まる」、「民族意識が成長」）を与えた。課題である「ナポレオンの大陸制覇の歴史的意義」の、プラス面とマイナス面の両面をキーワードとして与え、常に生徒に意識させることにした。本時の授業において、キーワードが記述の結論部分に当たることを説明してから、記述させることにした。結論部分をキーワードで示しておくことで、生徒は、何を書くべきかを明確にすることができると考えた。

◎ 考えさせる視点を与える

まとめの記述では、キーワードを裏付ける具体的な歴史的事象を考える必要がある。そのために、ワークシートに結論部分と歴史的事象に分けて記載できるようにした。そして、結論部分と歴史的事象を考えさせ、まず大まかなメモを書かせた。どのように記述すればよいか考えさせる視点を与えたことで、記述に苦手意識を持っている生徒でも取り組みやすくなると考えた。その後で、1回目の記述に取り組みさせることとした。

(2) 考えを深めさせる工夫

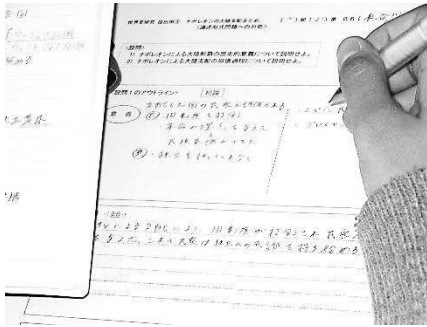
◎ ほかの生徒の記述を参考に、2回記述させる

1回目の記述をさせた後、ほかの生徒の記述内容を参考にさせて、2回目の記述をさせた。その内容を見直す機会を与えることで、生徒は考えを深めることができ、より具体的な分かりやすいものになると考えた。

◎ ICT 機器を活用して、視覚的にほかの生徒の記述を見せる

生徒の発表を、聞いている生徒たちには、あまり印象に残らない可能性がある。授業者もその場で良い点や改善点を助言することが難しい。そこで、課題2の「ナポレオンによる大陸支配の崩壊過程について説明せよ」では、生徒の記述をあらかじめ回収しておき、良い記述をスライドで提示し、記述内容の良い点や改善点を助言するなどの工夫をした。ICT 機器については、考えさせるための手段として、活用することとした。

4 生徒の記述や発表



1回目と比べて、歴史的
事象をより具体的に記述
できている。

キーワード 「旧制度の(が)打倒」、「革命の理念(が広まる)」、
「民族意識の成長」

生徒の1回目の記述

ナポレオンによる大陸制覇は、大陸諸国に旧制度の打倒、革命の理念を広めた。それは、ライン同盟の結成やティルジット条約によるワルシャワ公国の成立からうかがえる。他方、侵略的色合いを強めた支配への反発により、スペイン民衆の反乱が起きた。



キーワードを全て使用

同じ生徒の2回目の記述

ナポレオンの大陸制覇によって、大陸諸国に旧制度の打倒、革命の理念を広めた。それは西南ドイツ諸邦を併せ、ライン同盟を結成したことによる神聖ローマ帝国の消滅、ティルジット条約を結び、ワルシャワ公国が成立したことからうかがえる。一方、大陸封鎖令による大陸諸国の経済不振、侵略的色合いを強めたナポレオンの支配への反発などにより、諸国民の民族意識が成長し、独立の要求が高まった。プロイセン改革、スペイン民衆の反乱などの動きは各国に広まった。

《単元の振り返りの生徒の感想例》

- 「この出来事は歴史的にどのような影響があるのか」ということを考えて、学習しようと思った。
- 今回の授業で、「なぜスペインの反乱が起きたのか」、「ライプチヒの戦いでどうしてナポレオンが負けたのか」など、歴史的事実の背景がさらによく理解できた。

歴史的な背景に
着目している感想

- 記述をするには、分かりやすく書かなければいけないので、表現力も問われると思った。
- 分かりやすくまとめる力を付けることが必要だ。

表現力に関する
感想

- ほかの生徒の発表を聞いて理解が深まった。
- ほかの生徒の記述を読むことで、自分の記述の改善点がよく分かった。

ほかの生徒の記述を参考にして、
自らの記述を見直す感想

- 歴史的な事象を並べて覚えるよりも、理解が深まったと思う。
- 自分で記述することにより、知識が定着したので、とても良かった。
- 記述は知識や歴史的な背景など、様々なことを知っている必要がある。

基礎的な知識・技能の習得に関する感想

5 実践の成果

- 結論部分に当たるキーワードを提示することによって、まとめの記述にスムーズに取り組ませることができた。
- 結論部分を裏付ける歴史的事象に注目させることで、歴史的事象の理解にとどまらず出来事の背景や因果関係についての理解につなげることができた。考えさせる視点を明確に与えたことによって、生徒は何をどのように記述すべきかに戸惑うことなく、記述することができた。
- まとめ記述を2回書かせることで、生徒にとって新たな発見につながるということが分かった。またほかの生徒の発表を参考にさせることで、生徒は自分の記述を見直し、良い点や改善点に気付くことができた。
- 以上のような指導の工夫を行うことにより、単元のまとめである「ナポレオンの大陸制覇の歴史的意義」についての生徒の記述は、おおむね満足できる状況に達していた。
- ICT機器を活用し、生徒の記述をあらかじめ回収しておき、記述をスライドで提示し、記述の良い点や改善点を助言するなどの工夫を行うことができた。

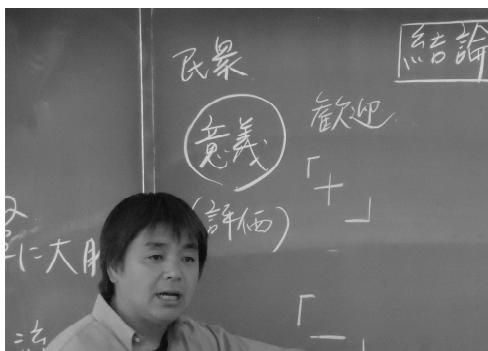
6 実践の課題と改善策

課題

- 記述に取り組ませるための時間の確保が課題となった。
生徒に考えさせ、記述に取り組ませるためには、具体的な指導を行う必要があった。記述に取り組ませるための時間を確保することが課題となった。

改善策

- 単元のまとめの課題として、授業時間外に取り組ませ提出させた上で、解説を付けて返却するという授業時間以外の取組みを工夫する。



[ステップ3] 年間指導計画作成の視点

◎ 段階を追って力を身に付けさせる

1回目の単元において、記述のねらいが不明確であったことと、生徒に考えをまとめさせるための具体的な手立てを講じることが課題となった。そのため、2回目の単元においては、

- ① キーワードを与えて考えさせる。
- ② キーワードを裏付ける具体的な歴史事象を考えさせる。

段階的に考えさせることによって、生徒がまとめの記述にスムーズに取り組むことができていた。また、その際、結論部分のキーワードは常に生徒に意識させたり、キーワードがまとめの記述の結論部分に当たることを理解させたりしてから、まとめの記述をさせた。段階を追って考えさせることで、生徒の記述は、おおむね満足できる状況に達することができた。

生徒の単元の振り返りからも、「ほかの生徒の発表を聞いて理解が深まった」や「ほかの生徒の記述を読むことで、自分の記述の改善点がよく分かった」といった感想があり、生徒が自らの記述を見直す機会を作ることで、段階を追って力を身に付けさせることにつながったことが分かる。

今後は、結論部分に当たるキーワードを生徒自身に考えさせてから記述させることや、年間のまとめとして、生徒自ら主題を設定し、歴史的観点から資料を活用して探究した成果を論述させていくことが可能になるだろう。

